

静岡県で活躍する医師



静岡赤十字病院

医療安全推進室長

稲葉 浩久 医師

現在のご勤務先での現況（印象や取り組まれていること等）について教えてください。

稲葉 医師

2024年3月に静岡赤十字病院を定年退職した後、2024年4月に嘱託職員として再雇用していただき、呼吸器外科の仕事に従事しつつ、医療安全推進室長を続けております。

医療安全推進室と言うと、何か病院でミスがあった時、院長先生と一緒にテレビの前で謝る人たちだと頭に浮かべられる方が多いかと思います。確かにそのような仕事もありますが、主たる仕事は大切な患者さんに不利益が及ぶことがないよう、また我々医療者の安全も確保されるよう、絶えず目を光らせて、医療事故が起きないように、監視・予防することです。このために有効な方法の一つがヒヤリハット報告です。ヒヤリハット報告とは、医療の過程でヒヤリとしたり、ハッとしたケースのうち、医療事故に至らなかった事象を報告するものです。この多くのヒヤリハット報告と不幸にして起きた医療事故の原因追求と対処法を検討することにより、医療事故を未然に防げる方法が見つかります。手間もかかり心労も多い仕事ですが、医療の根幹に関わる医療安全に携わることはとても遣り甲斐があります。

呼吸器外科を専攻したきっかけと魅力について教えてください。

稲葉 医師

母校の呼吸器外科学の教室は、手術をするだけでなく、検診・診断・手術・麻酔・術後の治療と、一人の患者さんを最後まで診る体制でした。まず、ここに魅力を感じました。そして入局したら癌免疫の研究をさせてくれるということが、決定打となりました(学生時代からNatural Killer細胞に興味があり、医局では肺癌の培養株を数10ライン所有しており、研究環境が整っていました)。いずれ静岡に帰してくれると約束してくれたこともあり、躊躇なく呼吸器外科学教室に入局しました。

医局在局中の基礎研究はとても楽しかったです。自分でやりたいことを選び、方法を考え、結果を考察する。従来の勉強とは異なり、自分の好きなことをやっているの、英文論文も苦も無くポエムを読むように読めました。



呼吸器外科を専攻したきっかけと魅力について教えてください。（続き）

稲葉 医師

医学生活6年目に父が亡くなり、母が一人になったため、医局生活は7年で打ち切り、8年目には静岡に帰ってきました。当たり前ですが、一般病院では基礎研究に専念できません。目の前にあるのは外科手術です。私の気持ちも自然と手術に移っていきました。

手術の魅力は達成感です。手術を成功させるために入念に事前の検討をし、自分に不足しているところがあれば勉強し、体調管理にも気を付け、本番は自分の総力を傾け、頭と手を動かします。その結果、患者さんにも喜んでいただけ、スムーズできれいな手術ができたときの達成感はたまりません。この喜びを知っている我々外科医は、毎日この達成感を追い求めてしまいます。

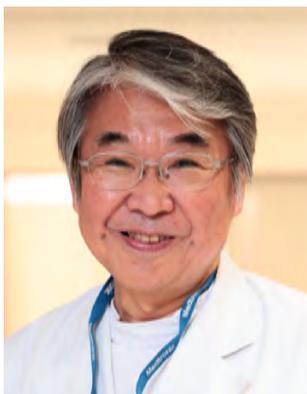
私も定年を迎えるにあたり、「今後は内科系の仕事に移っていくのだろう」と漠然と考えていましたが、この達成感・多幸感が忘れられず、まだ呼吸器外科にしがみついています。とは言え、術者をいつまでも続けていたら後進が育たず単なる老害です。今は手術の助手をしながら、多幸感のおすそ分けにあずかっています。



医師を目指す方や若手医師にメッセージをお願いします

稲葉 医師

私の場合呼吸器外科の仕事は自分自身にとって全く苦ではありませんでした。良い結果を出すための自己研鑽は、趣味といったは傲慢ですが、楽しいとすら言えるものでした。患者さんのための仕事ではありますが、自分の人生の質向上のためにやっていたように思います。皆さんもそのような仕事を早く探してください。きっと巡り合えるはずです。そして、患者さんのために、かつ皆さん自身の幸せのために、お仕事を頑張ってください。医療、そして外科は本当に遣り甲斐のある良い仕事です。



■プロフィール

稲葉 浩久 医師

趣味

- 日本史
- J-POP
(山下達郎、吉田美奈子、ティン・パン・アレー等)
- 川を見ること
- 清水エスパルス

経歴

1984年東北大学卒業と同時に母校の大学院に入学し、基礎研究をしつつ、呼吸器外科の基礎を学び、1988年に博士課程を修了しました。

その後1991年まで、東北大学呼吸器外科学教室(当時の名は抗酸菌病研究所外科)で研究生、助手として過ごしました。

1991年5月に、生まれ故郷の静岡県に戻り、静岡県立総合病院呼吸器外科副医長、1995年4月、同呼吸器外科医長を経て、2003年7月に静岡赤十字病院では外科副部長、2005年4月から同呼吸器外科初代部長となり、長く勤めました。2022年4月からは、同副院長と医療安全推進室長も兼務し、2024年3月に定年退職致しました。